飯能西中だより

天覧山 ７月号

飯能市立飯能西中学校
学 校 だ よ り
令和５年度　第４-1号
令和５年７月１２日発行

＜校訓＞　　誠・和・進　　　＜学校教育目標＞　　自立　共生

＜目指す学校像＞　　心のよりどころとなる世界に誇れる学校

一人ひとりが大切にされていることが実感でき家に帰った時に元気よくただいまと言える学校でありたい
飯能西中学校スクールアイデンティティー

平和への祈り

校長　中村　公一

長雨の季節に入り天気の優れない日が続いています。先週末には九州や中国地方で大雨がもたらされましたが、本校の校区にも大雨に警戒しなければならない河川などがあるので決して他人事ではありません。風水害への備えが必要なのは台風のシーズンだけではないことを改めて心に留めておかなくてはならないと思います。一般的に梅雨の終わりを迎える頃になると西日本を中心に激しい雨が降る傾向があるそうですから、梅雨が明けて夏が来るのはもうすぐかもしれません。

さて、夏の風物詩と言ったらどのようなものを思い浮かべるでしょうか。夏祭りや花火大会、海や山でのレジャー、夏の甲子園、中には「夏コミ」などを挙げる人がいるかもしれません。このように人によって想起するするものはいろいろでしょうが、それらと合わせて決して忘れてはならないのが「平和への祈り」だと思うのです。一例を挙げれば、先月の６月２３日は、７８年前に沖縄県民のうちの４人に１人が犠牲となった沖縄戦が終わった日であることから、その犠牲者を弔うために定められた「沖縄慰霊の日」でした。沖縄ではこの日を県独自で休日に定め、全県で祈りを捧げる日としているのですが、遠く離れた関東ではそのことを知らない人が多いようです。忘れることなどできるわけのない凄惨な出来事であったにもかかわらず、７８年という長い歳月の間にいつしか他人事のようになってしまっているような気がしてなりません。私も何年か前に沖縄県糸満市にあるひめゆり平和祈念資料館を訪れたことがあるのですが、館内にはひめゆり学徒隊として従軍して命を落とした沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の生徒達の写真を始めとして、戦争前の彼女たちの穏やかな日常生活から、戦闘が始まってやがて悲惨な最期を迎えるまでの様子がイラストや模型などを使って克明に描かれており、今の生徒達とも何ら変わらない平穏な生活から一転して凄惨な状況に追い込まれた彼女達のことを思うと涙なしでは見られません。そしてこのような悲劇はひめゆり学徒隊だけではありませんでした。白梅学徒隊、ずゐせん学徒隊など、ほとんどの学校から男女関係なく多くの生徒が戦場に駆り出され犠牲となっていたのです。私が最も憤りを覚えたのは当時の教育です。国家のために命を捧げることが最も尊い事なのだという価値観を植え付け多くの軍国少年や軍国少女を生み出していたからです。しかし当時の先生の手記や証言などを調べてみると、先生自身がそういった軍国主義を盲信していたケースも少なくなかったようですが、戦争を肯定する学校教育に違和感を覚えていた先生も多かったようです。しかし当時は世の中全体がそのような雰囲気で同調圧力が強く、とてもそれに異を唱えることが出来なかったと言います。戦後そのことをずっと後悔し続けていた先生も少なくないようです。同様のことはナチスドイツでも起きていました。気をつけないと学校という教育の場は、時の為政者にとって都合のいい人間を育てるための洗脳の場になってしまうのだということを、私たち教員は絶対に忘れてはならないと思うのです。戦後の日本の教育制度はそのような反省に基づいて築き上げられて来たわけですが、学校などの教育現場ではこれまでに人権や命に関わる多くの事件があったため、学校への信頼は大きく揺らいでいると言わざるをえません。学校は常に行政などからの強い指導が入っていなければだめなのだと思われてしまったら大変な事になってしまいます。人間の尊厳を守る教育を行い続けるためにも、私たち教員は日頃から信頼に足る仕事をしなければならないのだと思います。

修学旅行（３年）、宿泊学習（２年）、校外学習（１年）を実施しました

保護者の皆様のご理解とご協力をいただき、３年生の修学旅行（７月２日から７月４日）、２年生の宿泊学習（７月７日から７月８日）、１年生の校外学習（７月７日）を実施することが出来ました。梅雨時のため雨天が心配されましたが、どれも雨に降られることなく無事に行うことができました。

清水寺へ（３年生）

三十三間堂（３年生）

喜多院にて（１年生）

キャンプファイヤー（２年生）

飯ごう炊さん（２年生）

学びに向かう習慣を身につけましょう　　　　　　　　　　**生徒の皆さんへ**

何年か前に秋田県大仙市の小中学校をいくつか訪問したことがあります。秋田県の全国学力学習状況調査の結果は常に全国で上位にあります。そのため秋田県と埼玉県の学校では何が違うのか、また、取り入れるべきことは何かないか調べるのが目的でした。機会があれば朝会などでも詳しく話したいと思うのですが、一番大きな違いは授業の進め方と家庭学習の進め方でした。特に家庭学習についていうと、生徒は全員が家庭学習ノートを持たされているのですが、このノートを使って学習する内容はすべて自分が決めるのです。自分がわからないこと、自分が弱点だと思っていること、自分がもっと深くやってみたいことなど何でもいいので自分で考えて自分で決めて学習するのです。そして学習してみてどうだったかの振り返りをノートに一緒に書くのですが、これを繰り返していくうちにだんだんとやらされる家庭学習から自分から考えてやる家庭学習に変わっていくのです。小学校に上がったときからそういう習慣を身につけていくので、中学生になる頃には自然と主体的な学びが出来るようになっているわけです。ちなみに滞在中のホテルの従業員に聞いたところ、全員が家庭学習ノートのことを覚えていて、あれはやるのが当たり前だと思っていたと言っていました。秋田県の学力はこうした習慣と積み重ねによって支えられているわけです。ＰＴＡの協力により、この夏からみなさんの自主学習用に小学校から中学校までの５教科すべての単元にわたる問題と答えをｉＰａｄで開けるようにしました。群馬県の高崎市や先進的な私立の学校ではすでに導入している教材です。小学校までもどって学び直しをすることも出来ます。この夏、自ら学びに向かう習慣を身につけてみませんか。

○　７月の主な行事予定　○

２日（日）修学旅行（３年）を実施しました
２日（日）～４日（火）
５日（水）３年生振替休業日
７日（金）校外学習（１年）を実施しました
宿泊学習（２年）を実施しました
７日（金）～８日（土）
１０日（月）２年生振替休業日
１４日（金）４時間授業、部活なし
１８日（火）４時間授業、大掃除
１９日（水）３時間授業、給食なし、部活なし
２０日（木）終業式
２１日（金）ＰＴＡ懇談会
保護者相談（２８日まで）

ジャガイモとハーブの販売を行います

とうのす学級では学校の畑で穫れた作物を以下の価格で販売しています。本日から７月１９日（水）までの期間の授業時間内であれば生徒が接客販売を行います。また２０日以降は無人販売となりますので職員にお声かけください。

ジャガイモ	１袋　１００円
レモングラス	１束　１５０円